

# 「地域調査」の課題

池 俊介（早稲田大学）

# 「地域調査」の教育的意義

## 1) 子どもの興味・関心の喚起

→ 日常的な生活地域の中に「新たな発見」があるなど、子どもの学習意欲を高める効果が期待できる。

## 2) 社会科学習に必要な知識・スキルの習得

→ 教室で学ぶ知識とは異なる「生きた知識」の習得や、地図スキル、インタビューの方法など、社会科の学習に必要な知識・スキルを習得できる。

## 3) 学習方法の習得

→ 「事象どうしのつながり」の発見など、社会科学習の基本的な考え方の習得に役立つ。

## 4) 学校以外の「リアルな社会」との接点

→ 生徒－生徒、生徒－教師のみならず、地域の人々との交流を通して、地域社会に参加するための契機を提供することができる。

# 「地域調査」の現状

## 【小学校】

とくに3学年の実施率は約95%（学習指導要領実施状況調査）であるが、「身近な地域」よりも「自分たちの市」に重点が置かれるようになり、身近な地域を対象とする野外での活動が減少することが危惧されている。

## 【中学校】

「地域調査の手法」や「地域の在り方」で地域調査の実施が求められているが、実際に野外で行う地域調査の実施率は1学年で約12%、2学年で約11%（学習指導要領実施状況調査）と、実施率が低い。

## 【高校】

地理歴史科「地理総合」の「生活圏の調査と地域の展望」で地域調査の実施が期待されているが、実施率は約20%（池・福元，2014）と低迷を続けている。

→ 小・中・高校を通じて地域調査の実施率は低い。

# 「地域調査」(見学型フィールドワーク)

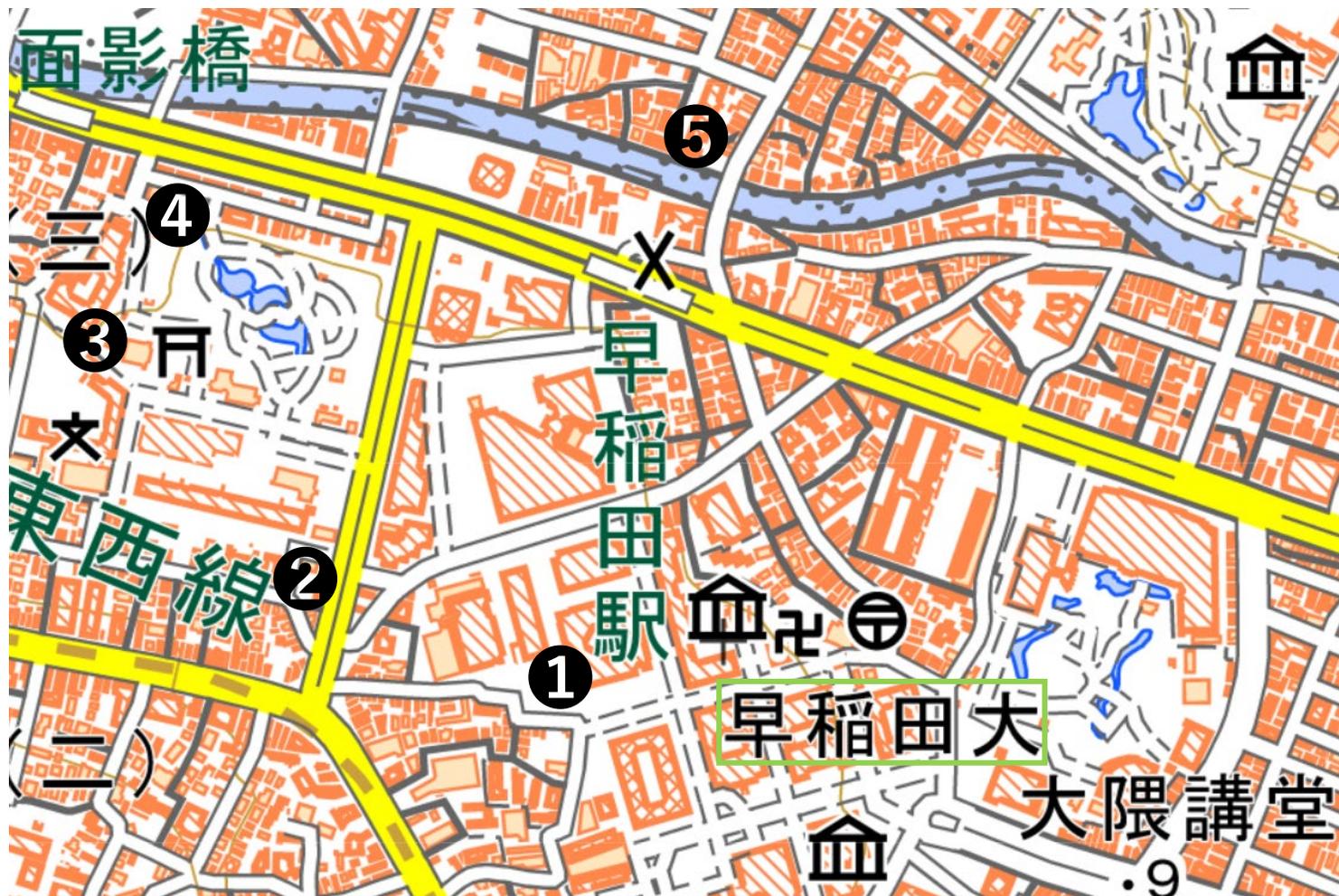
## 早稲田大学周辺の事例

### 【コース】

①早稲田大学 → ②高田馬場跡 → ③富士塚 → ④甘泉園公園 (大名屋敷跡) → ⑤神田川 → 早稲田大学  
(所要時間は1時間弱)

### 【対象】

小学校3年生～大学生  
中学校・高校の先生方



# 早稲田大学周辺の地域調査のおもなテーマ

## ① 地形と土地利用との関係

→ 武蔵野台地と低地の土地利用の違い

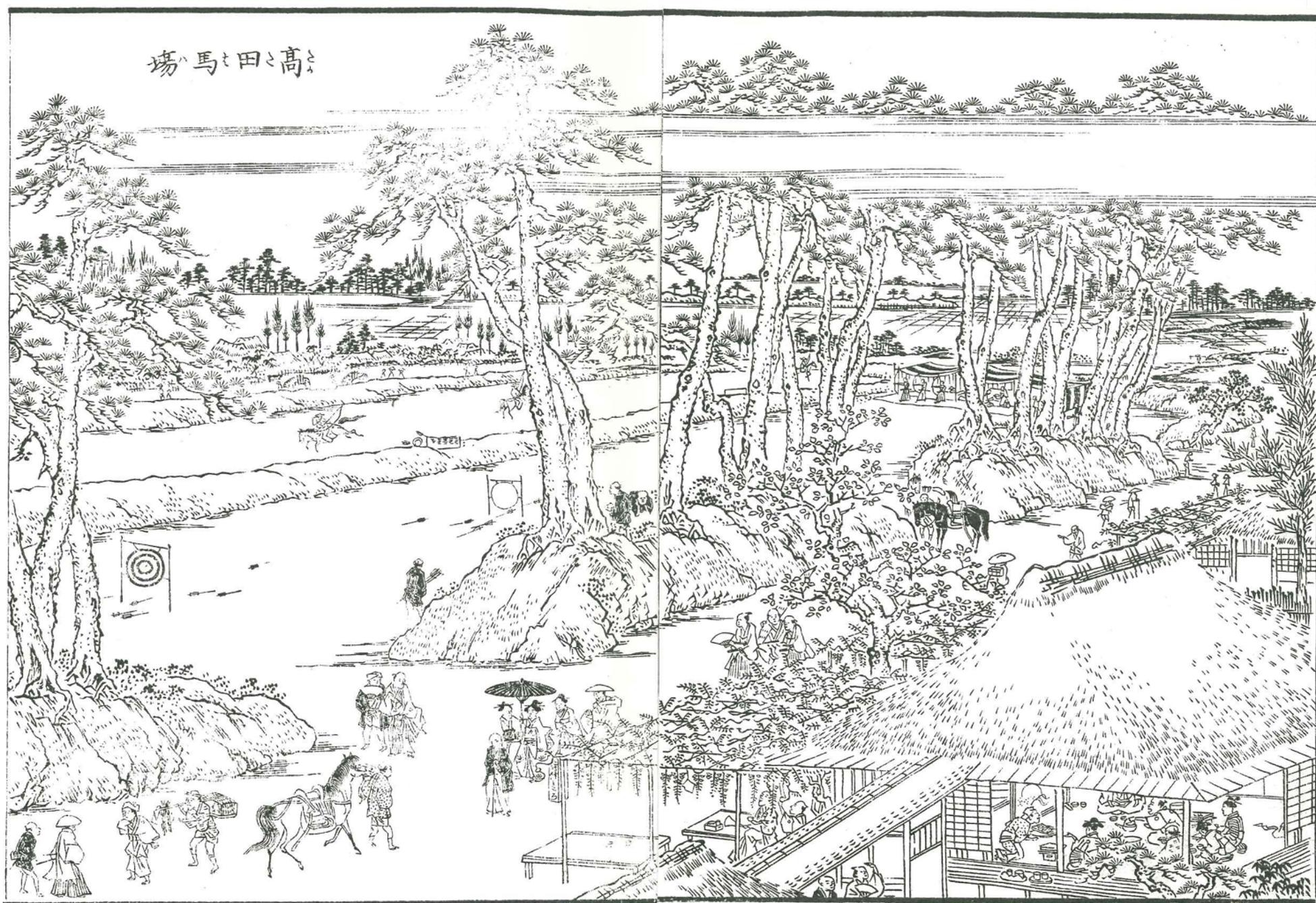
## ② 川と人間生活との関わり

→ 神田川の治水対策など

## ③ 地域の産業

→ 印刷工場の立地、大学周辺の商店街

高田馬場の馬場



## 高田馬場跡

(旗本の武芸の練習場)

「なぜ高田馬場はここに作られたのか？」

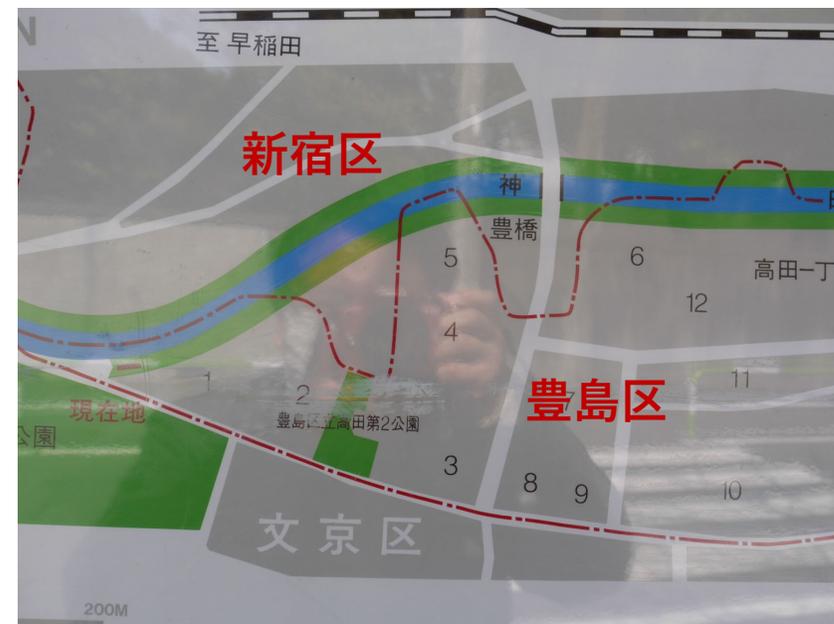
- ・ 平坦な武蔵野台地上
- ・ 江戸城から徒歩でも約1時間

- 地形と土地利用
- 立地条件  
(江戸の近郊)

# 神田川の治水対策

「なぜ区の境界が神田川的位置とズレているか？」

- 神田川の直線化と護岸工事
  - かつての川的位置が豊島区・新宿区の境界となっている。
- 環状7号線の地下に「調節池」を建設



神田川と新宿区・豊島区の境界



神田川の護岸

# 「地域調査」(見学型フィールドワーク)の特徴

- ① 短時間（1～2授業時間）で実施できる。
- ② 教師や地域人材などの案内者が説明し、生徒が観察したり説明を聞いたりするので、準備にかかる時間が少ない。
- ③ 地理と歴史の両面から身近な地域の特徴をとらえることができる。
- ④ 「問い」を重視すれば、生徒の主体的な取り組みが期待できる。



早稲田大学教育学部 地理学教室主催  
 ～高校生のためのフィールドワーク入門講座2022～

# 水の都・三島を

## 探究する

### -MISHIMA REBRAND-

大学の学問に触れ、実際に目で見て、聞いて、  
 調査することの面白さを体験しよう！

**11月20日(日) 10:00～16:00頃**

【集合】三島駅 (JR東海道線・伊豆箱根鉄道駿豆線)

【事前学習】11月6日(日)14:00～16:00 (オンライン開催)

対象：高1・高2

定員：20名  
 ※事前申込制、先着順

9月30日申込締切

主催  
 連絡先



QRコード or URLから  
 お申し込みください。  
<https://forms.gle/BvZFeJ75RtNfqQqT7>



# 地域調査の事例 (探究型フィールドワーク)

- 2022年11月20日に「静岡県三島市」で実施。
- 富士山の伏流水が豊富な「水の都 三島」の地域課題を発見し、探究する。
- 参加した高校生は16名  
 5校(静岡県2校、神奈川県2校、東京都2校)の生徒たち

# 三島フィールドワークのスケジュール

## 【キックオフミーティング】（オンライン）

日時：2022年10月6日（日）14時～16時

内容：基礎資料の提示と探究テーマの設定

**\* 事前に資料を提示**

## 【フィールドワーク】

日時：2022年11月20日（日）10時～16時

内容：10:00 三島駅南口集合

地域人材を活用  
動画等でも代替可能

10:00～11:00 ジオガイドによる見学型フィールドワーク

11:00～13:00 グループ単位での探究型フィールドワーク

13:00～14:45 地図づくり + 発表準備

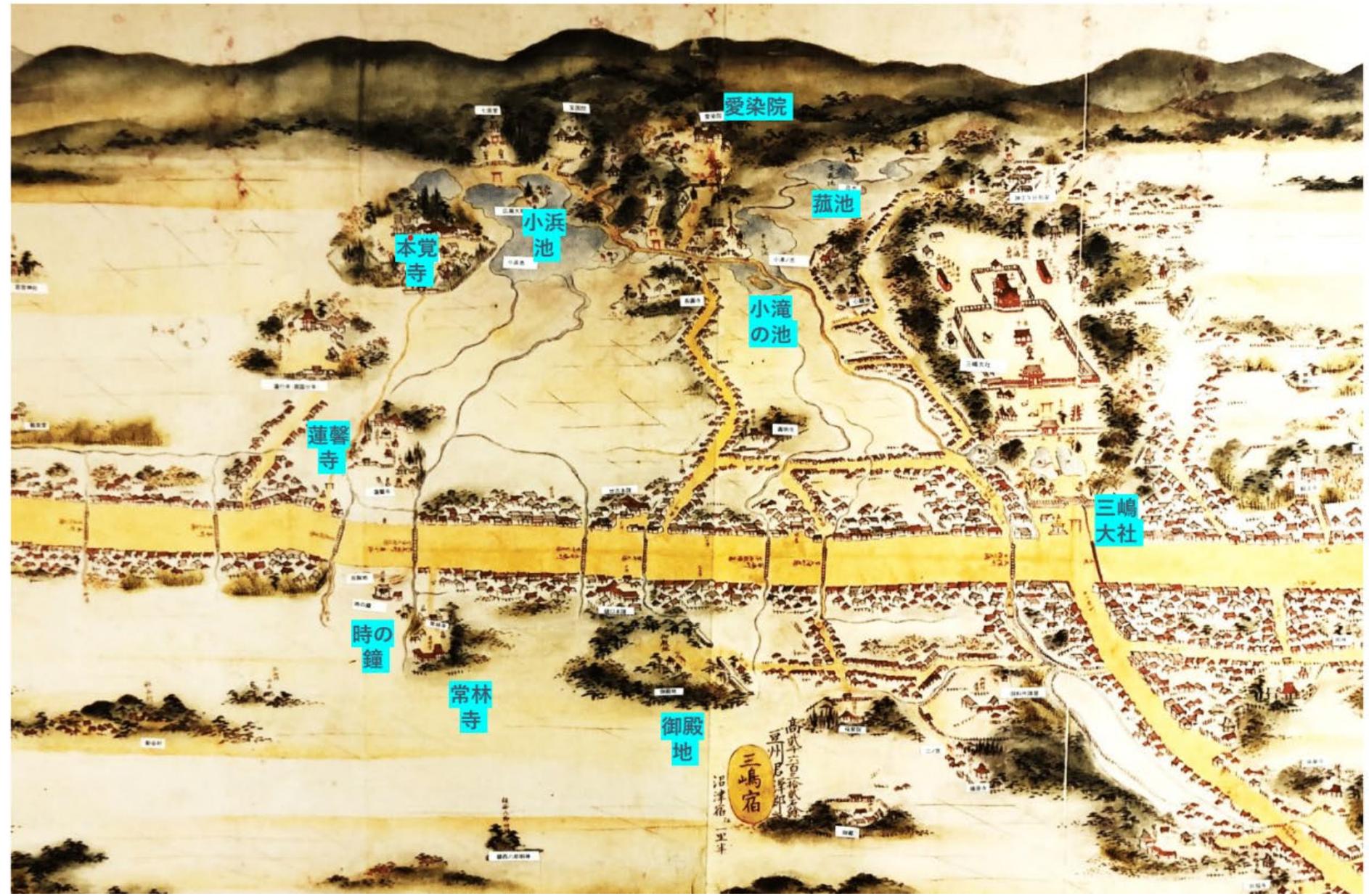
野外活動は約1時間

15:00～15:30 発表（3分×6グループ）

15:30～16:00 地元の地域づくり関係者からのコメント等

\* 歴史的な資料も提示

江戸中期  
1789年



東海道

静岡・三島駅前の再開発、ホテルや住宅、商業施設、オフィスなど複合施設に

暮らし

2022/06/22 16:00

ツイート いいね! シェアする! 81 0



BCN (2022.6.22)

開発と保護

三島駅前の再開発が問題になっています

静岡新聞 (2022.2.28)



三島駅前再開発 知事、認可の方針 「地下水懸念」付帯意見も  
2022年5月27日 07時54分



三島駅南口東街区の再開発事業について、安全面や環境面で配慮を求め付帯意見を付ける可能性を示唆する川勝知事 (左側) → 奥手

県は、開発事業に必要な組合の設立認可を五月末までに判断する予定。川勝知事は「違法でなければ認めざるを得ない」と述べ、認める方向であると説明。その上で「(懸念を) 放置することはできない。納得のいく説明を求めたい」として、付帯意見を盛る可能性に触れた。

東京新聞 (2022.5.27)

駅南口再開発で勉強会 グラウンドワーク三島、事業中止目指す

2022.2.28

三島市のNPO法人グラウンドワーク三島は27日、三島駅南口東街区で広域健康医療拠点やマンションなどを建設する再開発事業の勉強会を市民文化会館で開いた。

三島駅南口再開発 NPOが公開質問状 地下水保全に疑念 市に提出 / 静岡

静岡 毎日新聞 2020/10/6 地方版 有料記事 528文字

毎日新聞 (2020.10.6)

**\* 将来的な課題も重要**



三島溶岩流（楽寿園）

源兵衛川ぞいの遊歩道







調査する内容を整理

「まとめ」の内容を発表



# まちづくりグループ

Q 駅前の再開発についてどう思いますか？

- ・三島のシンボルにはやはり◎ (三島市在住 若い男性)
- ・アセスメントが足りない ( " 若い女性)
- ・観光色が強いので、商業施設やマンション建設に抵抗あり (在住 中年女性)
- ・一緒に交通事情の改善してほしい (在住 若い女性)



Q 三島市のいいところは？

- ・野菜が美味しい
- ・交通アクセス◎
- ・適度に栄えている
- ・人が優しい
- ・水が綺麗



ヒアリングして思ったこと

- ・思ったより賛成意見が多かった
- ・都会から来た人が三島の良さを知ってくればいいと思う



## 新しい提案

- ・南口じゃなくてもいいと思う
- ・具体的なアセスメントを
- ・駅前に特産物を売る (観光客～住民まで幅広く)
- ・高層じゃなくてもいいと思う



「まとめ」の事例 (まちづくりグループ)

# 参加した生徒たちの感想

- 三島という全く知識が無かった土地で課題を見つけ、インタビューをし、解決方法を考えるという体験がとても刺激的で面白かった。インタビューはなかなかした事が無かったが、今回のフィールドワークという活動によっていつもより積極的に動けて、知らない人にも話しかけるということが出来た。（東京・高2）
- 私は沼津の学校に通っているのですが三島には馴染みがありましたがこんなにも三島の自然に触れたのは初めてだし、三島の知られざる魅力を知れてとても楽しいイベントでした。（静岡・高2）
- ネットで調べても分からないことを自分たちの手で調べて、三島の環境や観光、まちづくりに触れることができ楽しかったです。（神奈川・高1）
- どんなジャンルでも、様々なジャンルが密接して関係しているのだとよく分かった。切り込み方で考え方や見方もずいぶん変わることがとても面白かった。（神奈川・高1）
- やっぱり現地に行って目で見て、体験して話を聞くと頭にすっくと入ってくるし、知らない学校の人と交流するのも新鮮で良かったです。（神奈川・高1）

# 地域調査を実施するための課題

## 1) 短時間でも効果的な地域調査の実施

事前の資料提示、地域人材の活用などにより、短時間の野外活動でも実施できる効果的な地域調査の事例を収集する必要がある。

## 2) 社会科の総合性を活かした内容の検討

地理学習以外の内容(とくに歴史学習)を組み込むなど、教科全体の学習に役立つ地域調査の実施を検討する必要がある。

## 3) 実施環境の整備の必要性

地域調査の方法を学ぶための先生方への研修機会の提供や、教材を学校や自治体単位で共有する仕組みをつくる必要がある。

# 【参考文献】

- 秋本弘章（2003） 野外観察と調査. 村山祐司編『21世紀の地理－新しい地理教育－』 117-122. 朝倉書店.
- 池俊介・福元雄二郎（2014） 高校地理教育における野外調査の実施状況と課題－神奈川県内の高校を対象としたアンケート調査結果から－. 新地理 62（1）：pp.17-28.
- 池俊介・吉田裕幸・山本隆太・齋藤亮次（2020） 地理教育におけるフィールドワークの類型化に関する試論. 早稲田教育評論 34（1）：pp.1-19.
- 池俊介編（2022）『地理教育フィールドワーク実践論』学文社, 192 p.
- 井田仁康・藤崎顕孝・吉田剛（1992） 初等教員養成学部における身近な地域の野外調査に関する指導－上越教育大学の場合－. 新地理40（2）：36-48.
- 犬井正（2009） 野外調査のあり方と課題. 中村和郎・高橋伸夫・谷内達・犬井正編『地理教育講座 第Ⅱ巻 地理教育の方法』古今書院.
- 大谷誠一（2019） 中学校における身近な地域学習の現状の課題と今後の展望. 新地理67（3）：102-111.
- 七里広志（2022） 中学校社会科「地域調査の手法」に関する野外調査の実態と指導方法－地域調査の学習指導に関する質問紙調査を中心に－. 滋賀大学大学院教育学研究科論文集 23：61－72.
- 篠原重則（2001）『地理野外調査のすすめ－小・中・高・大学の実践をとおして－』古今書院, 286p.
- 篠原重則（2000） 地理教育における野外調査の実態とその再構築への提言. 新地理 47(3・4): 132-141.
- 竹内裕一（2002） 野外調査のあり方と課題. 竹内裕一・加賀美雅弘編『身近な地域の調べ方』1-6. 古今書院.
- 松村志帆（2011） 小学校3年生「身近な地域」の学習の現状と課題－横浜市立小学校を事例として－. 2011年度日本地理教育学会第61回大会発表要旨集：26.
- 宮本静子（2009） 中学校社会科地理的分野の「身近な地域」に関する教員の意識. 新地理57（3）：1-13.
- 山本隆太（2022）：フィールドワークの類型. 池俊介編『地理教育フィールドワーク実践論』13-18. 学文社.